

工場の屋根全面に280枚の太陽光パネル 沖縄の豊かな自然を守る「循環型社会」に貢献

沖縄ハム総合食品(株)さま

沖縄料理の味を全国に提供する当社は、地域への貢献も大切な役割ととらえ「循環型社会」の実現に向け努力しています。その取り組みの一環として、新設工場の屋根全面に太陽光パネルを導入。今回の導入を第1弾と位置づけ、今後既存工場の屋根への設置も検討中です。



■導入先

沖縄ハム総合食品(株)さま



●沖縄/読谷村
●1977年設立。事業内容は、ハム・ベーコンなどの食肉加工品、惣菜、レトルト食品、飲料などの製造販売。県民の食卓のみならず、県内の一流ホテルやレストランでも使用され、広く親しまれている。

■導入商品

太陽光パネル280枚 50kW

●2010年3月、新設工場の屋根全面に設置し、CO2排出削減量は年間53t。

こんなソリューションを実現しました

Before

導入前(課題)

1 沖縄の自然を守るうえでも、沖縄を代表する企業が率先して環境対策をとることが重要だと考えていました。

2 新設する工場の屋根(620㎡)を有効に利用できればと考えていました。

3 地域への貢献を念頭に置く当社としては、社員一人ひとりが高い環境意識を持つことも大切だと考えていました。

After

導入後(効果)

1 工場の新設に伴い、太陽光パネルを設置。環境対策で大きな一歩を踏み出すことができました。

2 屋根全面にパネルを設置することで、年間53tのCO2排出量削減が見込めるほか、沖縄の厳しい暑さに対しても、遮熱効果による冷房費用の削減が期待できます。

3 CO2削減量などの数値が目に見えることで、社員の意識が高まることにも期待しています。

シャープ商品 導入事例

■インタビュー



沖縄ハム総合食品㈱
代表取締役社長 長濱徳勝さま(右)
総務部会長秘書 係長 玉那覇友也さま(左)

導入の背景

琉球ブランドを代表する食品会社として「循環型社会」の実現を目指しています。

当社が製造・販売する沖縄の地域色を生かした食品は、県内の一流ホテルやレストランで使われるほか、県外からの観光客の土産としても、新鮮な沖縄の味として、広く親しまれています。そんな琉球ブランドを代表する食品会社として、豊かな沖縄の自然を守るべく「循環型社会」の実現に貢献していくことは、とても大切なテーマと考えています。

これまでも環境対策として、事務所内の照明を昼休みの1時間消灯し、省エネに努めてきたり、レストランにシャープのLED照明を導入するなど、低炭素社会の実現に向け具体的な行動をとってきました。

選ばれた理由

「シャープの太陽光」にはブランド力と大きな信頼がありました。

「循環型社会」への取り組みを進めていく中で、世の中の関心も高まっている太陽光発電を、当社でも導入できないかと思うようになりました。こうした中、当社の近くにオープンした大型ショッピングセンターに、県内の小売業では最大規模の太陽光パネルが導入されることを知り、たいへん刺激を受けました。

そこで当社でも、敷地内に新しい工場を増設する機会を利用して、導入することを決定したのです。シャープ製を採用したのは、かねてから太陽光発電システムに関してシャープブランドに大きな信頼があったこと、ショッピングセンターで採用されたパネルもシャープ製であったことが主な理由です。

導入後の効果

CO₂排出量削減のほか、遮熱効果にも期待しています。

工場の屋根全面に50kWの太陽光パネルを設置したことで、年間53t(杉の木約3800本分に相当)のCO₂排出量削減が見込まれています。また、沖縄の夏は厳しい暑さですが、屋根全面をパネルで覆うことで、工場内の室温を下げる遮熱効果が見込まれ、冷房費用の削減も期待できます。

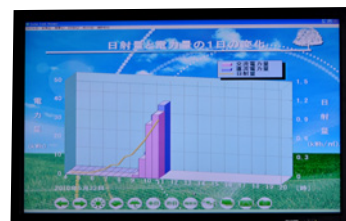
また、発電量、電気代の削減量が事務所内に設置したモニターで、目に見えて分かるため、社員の環境意識が高まることにも期待しています。

今後の展望

既存の工場への導入も検討中です。

今回の新設工場への導入は、あくまで第1弾と考えており、今後、既存の工場屋根への導入も検討しています。

さらに当社では、海洋博記念公園の近くにある上本部飛行場跡地を利用し、大型観光商業施設「虹の町 桃原」を建設するビッグプロジェクトを進めています。約15万坪の敷地内に観光農園、宿泊施設、キャンプ場のほか「環境型社会(エコ)展示場」も開設する計画で、このプロジェクトでも太陽光発電システムを導入することを視野に入れていきます。



社員の関心を集めている事務所内のモニター



新工場の屋根一面を覆う太陽光パネル



レストランには環境対策としてLED照明を導入